

令和 8 年度
行政視察報告

川俣町議会
広報編集常任委員会

1 調査事項・方法

- (1) 兵庫県太子町議会を訪問し、議会広報の作成、編集について説明を受け研修を行った。
- (2) 兵庫県市川町議会を訪問し、議会広報の作成、編集について説明を受け研修を行った。

2 調査期日

令和8年6月23日（火）から25日（木）までの3日間

3 調査参加者

広報編集常任委員会	5名
議会事務局	2名
計	7名

4 調査報告

(1) 兵庫県太子町議会における議会広報の作成、編集について

太子町は、兵庫県の南西部に位置し、人口33,233人、世帯数14,487世帯、面積22.61km²である。古くから聖徳太子ゆかりの地として知られ、斑鳩寺をはじめとする歴史・文化資源に恵まれた町である。



[太子町位置図](#)

(引用：兵庫県公式移住メディアサイト

「兵庫で暮らせば」)



[斑鳩寺三重塔](#)

(引用：太子町ホームページ)

太子町議会は、議員定数15名（欠員1名）、そのうち6名が議会広報特別委員であり、委員の任期は1年である。なお、太子町議会広報紙「太子町議会だより」は、兵庫県町議会議長会第46回議会広報コンクールにおいて、努力賞を受賞している。

議会だよりの発行については、本町と同様に5月、8月、11月、2月の年4回である。

太子町議会だよりは、令和7年度に議会だよりの表紙デザインをリニューアルし、住民にとってより読みやすく親しみやすい紙面づくりを目指してい

る。表紙のキャッチフレーズは委員が協議して決定しているとのことであった。

委員会では、企画・構成・取材・記事作成・編集まで委員が主体となって行っている。これまでは若手議員が委員を担うことが多く、委員への負担が集中していたことから、今後は委員以外の議員についても、一般質問の原稿作成に加え、委員会報告に係る原稿や各種事業に対するコメントの作成など、紙面づくりに参画する機会を設け、全議員が役割を分担しながら広報活動に取り組む体制づくりを課題としているとのことであった。また、役割は改選時からあらかじめ分担しておくことが有効ではないかとの説明を受けた。

また、議員や住民を紙面に積極的に登場させることで、顔が見える親しみやすい紙面づくりに努めるとともに、全国町村議会広報コンクール受賞紙を参考に、特集記事やデザインを積極的に取り入れるなど、より魅力ある広報紙づくりに取り組んでいた。本町においても、全議員が関わる広報体制の構築や、住民に親しまれる紙面づくりを進める上で、大変参考となる研修であった。



研修の様子

(2) 兵庫県市川町議会における議会広報の作成、編集について

市川町は、兵庫県中央部に位置し、人口10,357人、世帯数約4,823世帯、面積82.67km²である。町の中央を市川が南北に流れ、豊かな自然環境に恵まれるとともに、「ゴルフアイアン発祥の地」であり、PRに力を入れている。



[市川町位置図](#)

(引用：兵庫県市川町

移住定住サイト)



ゴルフアイアンヘッドPR用
トラック「愛アン8-10号」

市川町議会は、議員定数12名、そのうち6名が議会広報特別委員であり、委員の任期は2年である。なお、市川町議会広報紙「いちかわ議会だより」は全国町村議会第39回広報コンクール（令和7年度）において、優良賞（第10位）を受賞している。

議会だよりの発行は、本町と同様に5月、8月、11月、2月の年4回である。

「いちかわ議会だより」は、「手に取ってもらえる広報づくり」を目指し、作成、編集を行っている。

編集にあたっては、まず「優先順位をつける」ことを重視し、「町村議会広報全国コンクール審査方針」を基準として、住民の立場に立った紙面づくりを心掛けている。掲載内容についても、すべての情報を掲載するのではなく、住民の関心が高い議案等を優先的に取り上げ、見出しは8～12文字程度の簡潔で印象に残る表現とするなどの工夫がなされていた。

また、「伝わる広報紙」を目指し、特集やインタビューなど住民参加型の企画を掲載するほか、文字量を抑え、テーマごとに色分けするなど、視覚的にも分かりやすい紙面づくりに取り組んでいた。さらに、過去の記事を検証しながらデザインを改善し、より洗練された紙面へと発展させているとのことであった。予算・決算や重要案件については、議会と町民それぞれの視点によるコメントを掲載し、読まれる広報し作成に努めており、本町においても大変参考になる研修であった。



研修の様子

令和 8 年度
行政視察報告
(委員毎)

川俣町議会
広報編集常任委員

川俣町議会議長 様

広報編集常任委員

菅野 清一

令和8年 川俣町議会広報編集常任委員会所管事務調査報告

1	研修名	広報編集常任委員会所管事務調査
2	日時 調査地	令和8年6月24日（水） 調査先名 兵庫県太子町議会
		令和8年6月24日（水） 調査先名 兵庫県市川町議会
3	参加者	7名（議員5名・事務局2名）
4	研修内容及び まとめ （意見・感想）	①太子町議会における議会広報の作成、編集について 【内容】 人口33209人 昭和26年3村が合併し誕生、昭和30年龍田村が加わり現在に至る太子町の名は聖徳太子に由来している。今を遡る1400年前に推古天皇がこの地の水田100町を聖徳太子に賜り、これを法隆寺に納めたという。「和を以て貴しと為す」から始まる「十七条憲法」の精神は今もこの地に息づいており、「和のまち太子町」というゆえんである。 議員定数15人（1999年以降無投票一度もなし）議員報酬271000円 2027年改選より2人減員し報酬を320000円に 2025年2月和のまちをつくる太子町議会基本条例を制定 人口3万以上の町ならではのとして町執行部は部長制度をとっている。 議会だより218号 第46回議会広報コンクール（努力賞） 議会だよりは議会広報公聴委員会が担当 議会だよりは表紙と裏側がカラー中は一色である。 議員の一般質問は1頁2人となっている。 特徴的なのは「あの質問はどうなった」というコーナーを設けている。 1年に一回、各常任委員会や予算決算などすべての委員会の議員の出欠表も議会だよりに公表している。議場の設定も「和の町太子」と円形の形をとっている。議会中継はユウチューブ配信となっている。 【まとめ】 議会だよりを多くの人に読んでもらうための努力は大変なんものである。編集委員一人ひとりの思いが伝わっている議会だよりとなっている。特に新人の議員さんが編集に関わっているので新鮮さが伝わっている。全体的にベテラン議員だけで作られているものと比べてピュアさが際立っている。大いに学ぶべき نبودった。

	研修内容及び 4 まとめ (意見・感想)	②市川町議会における議会広報の作成、編集について 【内容】 人口10666人 昭和30年4ヶ村が合併し誕生した。 議員定数 12人 (2007年以降無投票一度もなし) 議会だより 164号 第46回議会広報コンクール 奨励賞 議会は12人中、1年生議員が7人となっている。議会基本条例の制定は確認されていなし。 議会だよりはフルカラーとなっている。印刷は町外の印刷会社に ン発注している。ページ数が28頁と多く、一般質疑の見出しにも 議員の顔写真があり、各議案の賛成討論や反対討論にもそれぞれの 顔写真が載り臨場感があふれている。また議案ごとの質疑のなか で議員の写真と答弁者の課長の写真も載せており臨場感丸出しの 迫力感がある。議会の専門用語(委員会の2年交代制や議長の2 年交代制など)の解説が詳しく説明されている。一般町民に議会 の様子が分かり易く説明されている。 文字の太さやゴシック体の使い方や色分け、縦文字と横文字の使 い分けがうまく写真とイラストのバランスが良い。議会だよりの コンクール上位入賞を目指している。 【まとめ】 人口は川俣と同じくらい規模であるが議会だよりの内容は斬新で 見るべきものがあつた。とにかく紙面づくりが丁寧で読者の注 目を集める内容が多かつた。これだけの内容にするのには編集委員 一人ひとりの努力と熱意には唯々驚くばかりであつた。わが町は まだまだという感は否めない。
--	-------------------------------------	---

川俣町議会議長 様

広報編集常任委員

藤野 圭史

令和8年 川俣町議会広報編集常任委員会所管事務調査報告

1	研修名	広報編集常任委員会所管事務調査
2	日時 調査地	令和8年6月24日（水） 調査先名 兵庫県太子町議会
		令和8年6月24日（水） 調査先名 兵庫県市川町議会
3	参加者	7名（議員5名・事務局2名）
4	研修内容及び まとめ （意見・感想）	①太子町議会における議会広報の作成、編集について 【内容】 広報紙コンクールなどで優秀な成績を収めており町民が「じゃあ読もう」と思える親しみやすさと、開かれた議会の実現を両立させる為の先進的な取り組みを行っている。住民目線を重視した編集手法を実践している。適切な余白や写真、見出しを効果的に配置した見やすい紙面づくりが行われており、文面も誰もが理解しやすい表現となっている。さらに、町民の関心が高いテーマを取り上げ、行政の動きと関連付けて紹介するなど、議会を身近に感じてもらうための工夫が随所に見られる。 【まとめ】 「読まれない議会だよりを出す意味なし」を編集方針に掲げ、広報広聴委員会が企画から取材、編集まで主体的に担っていた。写真やイラストを多用し、住民に分かりやすく親しみやすい紙面づくりを実践するとともに、QRコードの活用や表紙デザインの工夫など、読者目線を重視した改善を継続していた。また、議員の広報スキル向上や事務局との連携強化を図りながら、住民に伝わる広報誌づくりに取り組んでいることを確認した。

	4 研修内容 及び まとめ (意見・ 感想)	②市川町議会における議会広報の作成、編集について 【内容】 広報紙コンクールでも入賞を重ね、非常に評価の高い広報紙を作成している。「いちかわ議会だより」は、町民に「読まれる・伝わる・身近に感じてもらう」ことを徹底的に追求し、住民の目を引く「表紙デザイン」とレイアウトの工夫、住民参画を促す企画の充実などを行っている。複雑になりがちな町財政や一般質問の要旨を、単なる文字の羅列にせず、グラフやチャート図を多用して視覚的に整理。「議員の視点」と「住民の視点」を対比させるなど、親しみやすさと分かりやすさを両立させている。 【まとめ】 住民に「読まれ、伝わる」議会広報を目指し、議員・事務局・印刷業者が連携して編集を行っていた。住民インタビューや表紙写真・題字の公募など住民参加型の紙面づくりを実践するとともに、写真や色分け、分かりやすい見出しを活用し、中学生にも理解しやすい表現を心掛けていた。また、QRコードによる情報発信や編集マニュアルの整備、AI・Canvaの活用など、継続的な改善と効率化に取り組み、議会広報の質の向上を図っていることを確認した。
--	--	--

令和8年7月9日

川俣町議会議長 様

広報編集常任委員

藤原 正

令和8年 川俣町議会広報編集常任委員会所管事務調査報告

1	研修名	広報編集常任委員会所管事務調査
2	日時 調査地	令和8年6月24日（水） 調査先名 兵庫県太子町議会
		令和8年6月24日（水） 調査先名 兵庫県市川町議会
3	参加者	7名（議員5名・事務局2名）
4	研修内容 及び まとめ (意見・ 感想)	①太子町議会における議会広報の作成、編集について 【内容】 議会だよりの編集方針、発行までのスケジュールと留意点。表紙やページデザイン、一般質問の記事原稿の作成。最後に今後の課題と展望などについて説明をうけた。 【まとめ】 編集方針は幅広い世代の町民を想定し、手に取って読んでみようと興味を引き読みやすく分かりやすい誌面づくりを心掛けているとのこと。実際に先進地を視察し学んだものを取り入れるなどした。令和7年の7月号から表紙と裏表紙をリニューアルやレイアウトの工夫などに取り組んだのも成果の一つといえる。また年度ごとに表紙のテーマを決める、議員や住民を登場させるなどより身近な紙面づくりを目指しているように感じた。一般質問のページについては質問者の意向を尊重するとして自らが専用のフォーマットを使用し記事を作成している。最後に今後の課題と展望については誌面のカラー化と委員のスキルアップはもとより、議会全体の改革と連動した特集記事や活動内容を掲載することで誌面の充実につなげて行きたいとのことである。

令和8年7月2日

川俣町議会議長 様

広報編集常任委員

菅野 信一

令和8年 川俣町議会広報編集常任委員会所管事務調査報告

1	研修名	広報編集常任委員会所管事務調査
2	日時 調査地	令和8年6月24日（水） 調査先名 兵庫県太子町議会
		令和8年6月24日（水） 調査先名 兵庫県市川町議会
3	参加者	7名（議員5名・事務局2名）
4	研修内容及び まとめ （意見・感想）	①太子町議会における議会広報の作成、編集について 【内容】 『議会だより作成の工夫』について (1) 太子町議会だより「和のまち」について (2) 発行までのスケジュールについて (3) 読まれる議会だよりについて ①手に取りたくなる魅力的な表紙 ②特集ページ（巻頭） ③ページデザインを含めた原稿の作成 ④内容の充実(各紹介記事等) (4) 今後の課題と展望について (5) 質疑応答，意見交換，その他 【まとめ】 太子町議会広報は、議会改革推進の中で、より読みやすく親しみやすい紙面とする必要性から、令和7年度に（委員会の提案で）リニューアルされた。 太子町議会は町村議会広報全国コンクール入賞自治体などを参考にして取り組んでいる。議会だより編集作業は、広報広聴委員会を中心に、企画、取材、原稿作成、見出し、キャッチコピーの考案、校正、表紙のレイアウトやデザインの検討など、編集の中核的な役割を議員が担っている。また、委員以外の議員の協力もある。委員会での編集会議は3回程度となっているが、必要に応じて委員協議を行なっているとのこと。 本町の議会だよりについても、特集記事や議員の意見や感想を増やすなど内容の充実にトライすべきと感じた。

4	研修内容 及び まとめ (意見・ 感想)	②市川町議会における議会広報の作成、編集について 【内容】 1 住民に「読まれる」広報を！（手に取り読んでもらうために） (1)編集の役割分担について (2)手に取り読んでもらえる広報づくりについて ①優先順位をつける →編集方針を取捨選択、掲載内容を取捨選択 ②伝わる広報を目指して →見てわかる広報・文字より写真やイラスト・正しい文章(校正は委員全員で読み合わせ)・住民参加の広報 (3)質疑応答及び意見交換 2 市川町移動式情報発信拠点整備事業「愛アン8-10号」について (1)説明 (2)体験 (3)質疑応答 【まとめ】 市川町議会広報誌は、町村議会広報全国コンクール上位入賞自治体の広報及び同審査方針に示される5つの方針(①編集体制 ②企画・構成 ③編集・デザイン ④言語・文章 ⑤表紙デザイン)を踏まえ、上位入賞を目標にしている。 コンクール応募は別にして、コンクール上位入賞. 広報誌を研究し同審査方針を理解することは、本町の目指す「読んでもらえる議会だより」としても必要なことだと痛感した。 (市川町移動式情報発信拠点整備事業については割愛)
---	----------------------------------	--

川俣町議会議長 様

広報編集常任委員

高橋 道也

令和8年 川俣町議会広報編集常任委員会所管事務調査報告

1	研修名	広報編集常任委員会所管事務調査
2	日時 調査地	令和8年6月24日（水） 調査先名 兵庫県太子町議会
		令和8年6月24日（水） 調査先名 兵庫県市川町議会
3	参加者	7名（議員5名・事務局2名）
4	研修内容及び まとめ (意見・感想)	①太子町議会広報公聴委員会の取組について 【内容】 【まとめ】 太子町議会だよりは、委員会協議を含めて4回の委員会を開き、正副委員長協議を経て、最終修正とし、業者で印刷・納品となっている。 委員会の中では、 ①表紙は思わず手に取りたくなるような魅力的なデザインとする。 ②他市町村の優れたページデザインや企画は積極的に取り入れる。 ③写真やイラストを多用し、冗長な文章は避ける。 ④文章は「ですます調」を基本、行政用語を避け、平易な文章で。 ⑤記事には目を引く見出しを付ける。 ⑥紙面に議員や住民を登場させる。 ⑦見やすく印象的なフォント、見出しのデザインを工夫する。 ⑧写真にはキャプション、人名や読みにくい漢字にはルビを付ける。といったことを留意点として編集にあたり、町民に手に取っていただき、読んでもらえる議会だより作成に努力しているとのことだった。 今後も、読まれる広報紙へ、改革の推進、内容の一層の充実、多くの議員が編集に携わる、編集方針、編集要項の取りまとめを課題として努力していくとのことだった。

4	研修内容及び まとめ (意見・感想)	②市川町議会広報編集委員会の取組について 【内容】 【まとめ】 市川町広報編集委員会は、住民に「読まれる」広報を！をモットーに編集をしている。 議会、事務局、印刷所がそれぞれ役割分担を明確にして、三位一体で取り組んでいる。 ①優先順位をつける。②「伝わる」広報を目指して、の2つの大きな方針のもと手に取り読んでもらえる広報づくりに努力している。 ①優先順位をつける では、全てを伝えるのは無理ということ为前提に取捨選択をして、簡潔明瞭な紙面にすることを心掛けている。 ②伝わる広報を目指して では、写真やイラストを多く使うなど、できるだけ文字を少なくする、また、住民のインタビューなど住民参加の広報誌にすることを心掛けているとのことだった。 今後は、今までの取組を進化させ、町民誰もが手に取り読んでもらえる広報誌を目指して努力していくとのことであった。
---	-----------------------------------	--